

令和8年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価の結果報告書  
(令和7年度実績)

御 代 田 町 教 育 委 員 会

## — 目 次 —

### I 点検・評価の概要

|             |   |
|-------------|---|
| 1 はじめに      | 1 |
| 2 目 的       | 1 |
| 3 対象事業の考え方  | 1 |
| 4 点検・評価の考え方 | 1 |
| 5 意見等の活用    | 2 |

### II 点検・評価の結果

(基本方針・主要施策)

・地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進

    学校教育の充実 3

    学校給食の充実 6

・いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進

    生涯を通じた学びの推進 8

    図書館の充実 12

・スポーツへの主体的な取り組みの推進

    生涯スポーツの振興 15

    スポーツ施設の整備 17

・文化と芸術の織りなす地域づくりの推進

    文化・芸術の振興 18

・次代・郷土を担う人材育成

    新たな奨学金や通学補助などの学びの機会の確保・ 20

    支援事業の検討

|             |    |
|-------------|----|
| III 教育委員会活動 | 22 |
|-------------|----|

## I 点検・評価の概要

### 1 はじめに

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行うことが義務付けられたことに伴い実施するものです。

### 2 目 的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、教育次長以下の職員で構成される事務局を、様々な立場の複数の教育委員による合議により指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされています。

事務の点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

### 3 対象事業の考え方

本年の点検・評価の対象事業は、前年度である令和7年度分の事業実績としました。その対象範囲は、学校教育、生涯学習、文化振興及び体育振興に関することなど地教行法第21条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務など、本委員会が所管する全ての事務としました。

事業のまとめ方については、第5次御代田町長期振興計画の施策体系により、施策の柱・基本方針及び主要施策を踏まえつつ、教育委員会が行っている主な事業を網羅する形で該当事業を選定しました。

### 4 点検及び評価の考え方

対象事業の点検については、事業評価シート「2. 施策に該当する事業」欄の事業の内容（対象、実施状況、結果等）と「4. 施策に対する現状の課題、改善策等」の記述に反映させました。

評価については、事業評価シート「3. 事業評価の凡例」のとおり、事業の必要性、事業の妥当性、事業の成果、事業の効率性、事業の方針の5つの観点から評価を行い、評定では、A・B・C・D・E・Fの順に3から6段階に分けて自己評価を行いました。

## 5 意見等の活用

点検評価の客観性を確保し、かつ広い観点からの意見を求めるため、教育経験者や地域住民のために貢献されてきた団体の責任者等からご意見をお聴きする機会を設け、様々なご意見及びご助言をいただきました。

ご意見をいただいた方々は次のとおりです。

(敬称略)

(氏 名) (所属等は令和8年4月時点)

柳沢 充夫 御代田町民生児童委員協議会 会長

土屋 一男 御代田町社会教育委員 委員長

柳澤 純子 こども自然探検隊 委員長

菅野 洋 スポーツ協会 副会長

林 克英 御代田中学校PTA顧問

## 6 点検評価実施日

令和8年8月19日（水） エコールみよた大会議室

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります  |
| 基本方針 | 地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進 |
| 主要施策 | 学校教育の充実                     |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名            | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 学力向上対策事業     | <p>【ステップアップ塾(小学4年生から中学2年生対象)】 [事業費]1,018千円</p> <p>令和2年度から寺子屋塾の名称をステップアップ塾に統一変更し、小学校4年生から中学2年生までの児童生徒を対象に水曜日の放課後に開講しています。学習習慣の定着を目的とした上で、できるかぎり個々の進度に合わせた指導を行い、学年ごとにテキストを活用して学習しています。講師は、教員や塾講師経験のある方などをお願いしています。</p> <p>[小学校] 開催回数：水曜日の放課後（6月から3月まで 29回程） 教科：算数<br/> 参加人数：北小学校 4年 3名 ・ 5年 9名 ・ 6年 5名 合計17名<br/> 南小学校 4年17名 ・ 5年16名 ・ 6年20名 合計53名</p> <p>[中学校] 開催回数：水曜日の放課後（6月から3月まで 25回程）<br/> 教科：数学か英語のどちらか1教科<br/> 参加人数：中学1年：32名（英語：17名、数学：15名）<br/> 中学2年：37名（英語：29名、数学：8名）</p> <p>【夢サポート塾(中学3年生対象)】 [事業費]6,608千円</p> <p>株式会社トライグループへ業務委託し、公設学習塾「夢サポート塾」を御代田中学校で実施しました。夢サポート塾では、「学習意欲の向上」と「学力の向上」を目指すとともに、志望校に合格できるよう、習熟度別・少人数制の指導により、家庭教師のトライの講師とともに専属スタッフがバックアップするサポート体制で行いました。</p> <p>[参加者数]57名(うち国語選択者 34名)<br/> [授業形態] 習熟度別に編成した少人数制の指導(1クラス概ね9名)<br/> [実施回数] 毎週土曜日(7月19日から3月7日までの全30回)<br/> [教科・時間] 数学及び英語・1コマ70分×2教科、国語(選択制)・1コマ60分</p> <p>【自習室開放】 [事業費]0千円</p> <p>児童生徒の学力向上対策として、夏休み期間中に、集中して学習ができる場所を提供するため、役場庁舎の会議室を、週休日で予約のない時にエコールみよたの会議室を開放しました。</p> |
| 事業費 7,626千円    | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 2 特別支援教育事業     | <p>特別な支援を必要とする児童生徒は、その数が増加傾向にあるとともに、障がいの特性は多様化してきています。その中で、子どもの個々の力や理解の実態を把握しその子の良さを生かしながら、発達段階に応じた支援体制の充実が求められていることから、保護者や子どもへの教育支援、就学などに対する相談について、公認心理師や専門家、また関係機関との連携を図っています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 事業費 0千円        | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 3 いじめ・長期欠席対策事業 | <p>いじめや様々な理由により学校に通えない長期欠席者への対策のため、町指導主事や公認心理師、また学校関係者などにより、支援に取り組んでいます。</p> <p>多様な教育的ニーズに応じた個々の子どもへの関わりを持ち、児童生徒に辛く悲しい思いをさせないよう、相談員や特別支援学級と連携し、子どもたちと向き合っています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 事業費 0千円        | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 情報モラル教育推進事業  | 現代社会の課題の一つとして、ネット犯罪が挙げられます。児童生徒が犯罪に巻き込まれ、被害に遭うケースも少なくありません。また、知らないうちに加害になる場合もあります。<br>犯罪防止のため情報モラル教育については、日ごろの授業の中での取り組み、また、講師等を活用して情報リテラシーの向上を図っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業費 0千円        | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= B 効率性= B 方針= A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 5 GIGAスクール構想事業 | 国においては、GIGAスクール構想に基づく情報通信技術(ICT)の推進及び子どもたちの「学び」を支える機会(オンライン学習など)の確保を進めています。このことから、小中学校のネットワーク環境の整備やドリル学習用ソフトの導入により、児童生徒がオンラインで学習ができる環境を整備しました。国では、令和6年度から第2期GIGAスクール構想として、端末の計画的な更新を行うこととされていることから、令和7年度は中学校の端末更新を実施しました。また、教員のICT活用能力の向上やICT研修など、専門業者に事業を委託し、ICT教育の向上を図っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 事業費 36,807千円   | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 6 安全確保事業       | 教育委員会では、警察、道路管理者、学校、PTAによる通学路安全推進会議を設置し、御代田町通学路交通安全プログラムを策定しています。本プログラムに基づき、通学路合同点検と危険箇所点検を隔年で実施しています。<br>令和7年度は、7月に各関係者が集まり危険箇所点検を実施しました。点検では、通学路等における危険箇所を把握するとともに、改善できるかどうかの検討も行いました。<br>検討結果として、三ツ谷清万線において、雀ヶ谷信号からのグリーンベルトを塩野信号まで延長する予定となっています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 事業費 0千円        | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 7 学校施設維持管理事業   | 学校教育施設については、教育活動を展開する上での基盤であり、安全で充実した施設であることが求められています。子どもの安全確保のため、長寿命化計画である個別施設計画による施設ごとのメンテナンスサイクルの実施により、施設を維持管理していくことが重要です。<br>小学校については建築後50年が経過しようとしており、両小学校の建て替えに必要な建設事業費の財源を計画的に積み立てていく必要があることから、令和4年度から「御代田町立小学校建設基金」へ積み立てを行っています。<br>①北小学校の防火設備が正常に作動しないと定期検査で指摘があったことから、防火シャッターの改修工事を実施しました。<br>【工事内容】防火シャッター改修工事 一式 [5,883千円]<br>②南小学校の黒板が劣化により、字が見えにくくなっていたため、施設延命化を図るため塗り替え修繕を実施しました。<br>【工事内容】黒板塗り替え修繕 一式 [882千円]<br>③中学校体育館に、屋内でも生徒が熱中症の心配なく安心して運動ができるようにすること。また、学校体育館は、災害時には避難所として活用されることから、避難所機能強化を図るため、冷房設備設置工事を実施しました。<br>【工事内容】冷房設備設置工事設計監理 一式 [14,300千円]<br>冷房設備設置工事 一式 [127,380千円] |
| 事業費 148,445千円  | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= A 方針= B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

### 3. 事業評価の凡例

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 事業の必要性 | A:増加している B:横ばい C:減少している                    |
| 事業の妥当性 | A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない     |
| 事業の成果  | A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない |
| 事業の効率性 | A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い                    |
| 事業の方針  | A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止     |

#### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①放課後学習塾「ステップアップ塾」は、児童生徒の学習習慣の定着を目的に実施しています。つまづいてしまった学習内容に戻って学び直すことや、同じ内容を繰り返し学習することで基礎学力の向上を図っています。個々の実態や学習進度に応じた支援に取り組んでいます。                                                                                                                            |
| ②公設学習塾「夢サポート塾」は、中学の総復習として中学1年生から3年生の学習内容の基礎固めを順序よく講義形式で教えていきながら、高校受験を見据えて受験対策に絞った講義や総復習、また受験問題の傾向を踏まえた入試問題の解き方など実践的に進めてきました。今後も学力向上に向けてより一層、生徒一人ひとりがどの程度理解しているのかをしっかりと把握しながら講義を進めていくとともに、保護者からの意見も参考に事業を進めていく必要があります。令和7年度からは、利用者ニーズを鑑み選択科目として国語を追加しました。 |
| ③発達障がいや学習に関する様々な課題を持つ児童生徒への支援の必要性は高いため、児童生徒の状態に応じ、今後でもできる限りの支援を継続していきます。指導主事の学校訪問による実態把握や、公認心理師による教育相談（発達検査・保護者との相談など）により発達上問題がないか数値的にも把握しています。発達に課題のある児童について、町保健師や関係機関と連携し、医療に繋げることができているものの、支援の過程において家庭との合意形成を丁寧に進める必要があります。                           |
| また、様々な理由により学校に通えていない児童生徒に対して、指導主事・公認心理師や学校と情報を共有し、連携を図りながら支援に取り組んでいきます。                                                                                                                                                                                  |
| ④GIGAスクール構想に基づき、ICT教育の推進を図っていますが、ICT化については今後ますます目まぐるしく変化していきます。このため専門業者に事業を委託し、学校と連携しながら教育現場の実情に沿ったICT教育の推進に取り組めます。また、ネットの加害・被害問題や児童ポルノなどについても、講師等を活用しながら情報モラル教育の向上を図ります。                                                                                |
| ⑤危険箇所の改善について、全ての箇所が改善できるものではないものの、緊急性が高い箇所は重点的に対応していく必要があります。今後も児童生徒の安全確保は必要不可欠であるため、関係機関と連携を図りながら継続した安全点検に努めます。                                                                                                                                         |
| ⑥学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、安全で安心して学習できる環境整備が必要不可欠です。また、非常災害時において学校体育館は避難所として地域住民の避難生活の拠点としての役割があります。                                                                                                                                                     |
| 日常のみならず、災害時においても十分な安全性・機能性を確保し、学校施設が常に健全な状態を維持できるよう、適切な維持管理を実施します。                                                                                                                                                                                       |
| また、令和2年度に策定した公共施設等総合管理計画による個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、維持管理計画の実行や施設整備体制の構築により、財政的な負担を縮減し、修繕費や工事費の平準化を図る必要があるため、計画的に取り組んでいきます。                                                                                                                              |

#### 5. 識者からの意見

|                                                      |
|------------------------------------------------------|
| ・ブルボン前の信号など通勤・退勤時は特に信号無視の車両が目立つ。安全確保事業にも力を入れてほしい。    |
| ・情報モラル教育の講演については、保護者も参加できた方が良いので、PTAなど含めて一緒に検討してほしい。 |
|                                                      |
|                                                      |
|                                                      |
|                                                      |

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります  |
| 基本方針 | 地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進 |
| 主要施策 | 学校給食の充実                     |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名           | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 学校給食費無償化事業  | <p>令和2年7月から新型コロナウイルス感染拡大に伴う子育て世代の経済的な負担を緩和することを目的に、前倒して実施した学校給食の無償化を令和3年度から本格実施しています。</p> <p>無償化を実施したことにより、保護者の経済的負担の軽減ができ、子育て支援の充実が図れました。学校給食運営基金を設置し、安定した学校給食費の無償化が実施できています。</p> <p>【無償化となった給食費】小学生310円/1食、中学生340円/1食</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業費 85,560千円  | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ A 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 2 食育の推進事業     | <p>栄養バランスのとれた食事を提供し、地場産物の活用や郷土食、行事食を取り入れるなど献立の充実を図り、食に関する指導の「生きた教材」として、食育の推進に繋げています。</p> <p>また、学校と連携し、学校図書館とのコラボ給食、栄養教諭と調理員による給食時学級訪問での食に関する指導や意見交換を実施しました。児童生徒の学校給食に対する意見や感想、摂取状況等の実態を把握し、学校給食に反映し、安全・安心で美味しい学校給食を提供できるように給食アンケートを実施しました。アンケートでの朝食の喫食率は「毎日食べる」と回答した小学生は83.3%、中学生は84.0%でした。朝食を意識した献立を提供し朝食の喫食率向上を促す「ランチde朝食」や、食育だよりやお昼の放送を活用し、朝食の大切さを理解してもらえるように努めました。安心安全な学校給食について理解を深めてもらうことを目的に、町民向け給食試食会を実施しました。試食会では施設見学、栄養教諭による講話も実施しました。</p> <p>【コラボ給食】10回実施【Chef's給食】2回実施【学級訪問】30回実施【町民向け試食会】2回</p> |
| 事業費 千円        | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ B 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 3 地産地消推進事業    | <p>地元の生産者団体を通じて、町内産の野菜、味噌、米、地粉を購入し、学校給食に活用し、地産地消を推進しています。年度当初に生産者と年間の出荷予定を確認し、計画的に地場産物を活用しています。また、地場産物を使用したTHE HIRAMATSU 軽井沢御代田のシェフが考案した給食を提供しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事業費 578千円     | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ A 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 4 食物アレルギー対応業務 | <p>食物アレルギーの反応がある児童生徒は36名、他に牛乳飲用不可の児童生徒は46名でした。文部科学省から示された「学校における食物アレルギー対応指針」と長野県教育委員会から示された「学校給食における食物アレルギー対応基本指針」に基づき策定した、「御代田町学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」により対応しています。アレルギー専任栄養士を配置し、『学校生活管理指導表』に基づき、代替食の献立作成から調理、個別の受け渡しまでを行い、学校や保護者との連絡・確認を徹底し、栄養教諭とアレルギー専任栄養士が二重チェックを行い、提供誤りのないように取り組んでいます。</p>                                                                                                                                                                                                              |
| 事業費 2,547千円   | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ A 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 5 施設・設備の修繕業務  | <p>施設管理については、電気保安業務や厨房機器保守業務等、11業務を委託契約し、給食の調理や、食器・食缶の洗浄作業に影響が出ないように、定期的な保守点検を行い、機器の交換・修繕等を計画的に実施しました。開設から15年経過し、施設や設備の経年劣化による不具合や故障が多くなっていますが、その都度、給食調理に影響がないように対応しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 事業費 4,800千円   | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ B 効率性＝ A 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

### 3. 事業評価の凡例

|        |          |            |              |                 |
|--------|----------|------------|--------------|-----------------|
| 事業の必要性 | A:増加している | B:横ばい      | C:減少している     |                 |
| 事業の妥当性 | A:妥当である  | B:ほぼ妥当である  | C:あまり妥当ではない  | D:妥当ではない        |
| 事業の成果  | A:上がっている | B:やや上がっている | C:あまり上がっていない | D:上がっていない       |
| 事業の効率性 | A:高い     | B:やや高い     | C:やや低い       | D:低い            |
| 事業の方針  | A:拡大     | B:現状のまま継続  | C:改善後継続      | D:統廃合 E:休止 F:廃止 |

### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県市町村給食費負担軽減交付金及び学校給食運営基金を活用し、今後も子育て支援策として、学校給食費の無償化を継続します。</li> <li>・学校給食を通して食育推進を図ります。今後も、給食時学級訪問での調理場職員と児童生徒との意見交換や、給食アンケートの集計結果をもとに、献立や食に関する指導等に活かします。</li> <li>・朝食について、「毎日食べる」児童生徒を増やすために、朝食の大切さを伝える効果的な取組を栄養教諭と学校で連携し進めます。また、食育だよりを活用し保護者にも朝食の必要性を啓発していきます。</li> <li>・地元の生産者団体等との情報交換等を行い、学校給食において地元で生産される食材を積極的に取り入れ、地産地消の推進を図ります。</li> <li>・給食で使用されている地場産物の認知度を向上させるため、給食時の放送原稿や食育だよりを通じて周知を図ります。</li> <li>・食物アレルギーのある児童生徒に、今後も安心安全な給食を提供できるよう「御代田町学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に沿って、学校と調理場が相互に連携し、共通認識を持って組織的に対応します。</li> <li>・安心安全な給食を児童生徒に提供するため、今後も施設や厨房機器の定期点検、計画的な交換・修繕を実施し、適切な維持管理の徹底を図ります。</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 5. 識者からの意見

|                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おにかけうどん」を地元の団体と一緒に作り、給食に提供することも良いと思う。</li> <li>・給食で栄養を補っている児童生徒もいると思うので、夏休み中の対応も検討してほしい。</li> </ul> |
|                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                              |

## 教育委員会 事業評価表

### 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります  |
| 基本方針 | いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進 |
| 主要施策 | 生涯を通じた学びの推進                 |

### 2. 施策に該当する事業

| 事業名              | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 社会教育推進事業       | 生涯学習では、公民館長(会計年度任用職員)を配置し、学級講座、学習会、講演会、コンサートなどの事業を計画し、生涯学習の機会の充実を図りました。「歴史講座」は、昨年に続き、北國街道をテーマに開催し、24名の参加がありました。「歴史の旅」は、新潟県佐渡市の金山や資料館を24名が巡りました。「いきいき教室」は、「お天気講座」、「整理収納アドバイザー講座」、「防災講話」の3回開催し、延べ38名の参加がありました。また、ハッ場ダム視察研修、東京消防庁資料センター視察研修は、それぞれ22名の参加でした。夏休み子ども講座として開催しました「お天気教室」、「ドローン教室」、「ゴム銃作り教室」は、小中学生78名の参加がありました。「二十歳を祝う会」では、実行委員による式典や記念事業を行い、125名の参加がありました。「きなんしまつり」は、総合文化展25団体、芸能発表会26団体の参加がありました。2年目の開催となる2025セイジ・オザワ松本フェスティバルスクリーンコンサートでは、260名の来場がありました。また、サロンコンサートは、県内外から出演があり、7回の開催で延べ400名の観客がありました。社会教育委員の活動では、「防災」をテーマに取り組み、令和4年度から開始した学校運営協議会の委員として地域と学校を繋ぐ取り組みや各種研修会へ参加しました。芸術文化大会等出場者へ激励金を交付する要綱を制定し、延べ9名に交付しました。このほか25の生涯学習関連グループや各分館活動への支援を行いました。 |
| 事業費 9,696千円      | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 2 人材バンク事業        | 「人材バンク」登録者は76名で、昨年度より5名増えています。夏休み講座や各種講座への講師依頼をしたり、人材情報を学校等へ提供して活用しています。中学校部活動用の「人材バンク」登録者についても、部活動の地域移行等に繋がるよう、中学校へ共有しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 事業費 0千円          | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ B 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 3 青少年育成・伝統文化継承事業 | 7月は御代田駅前、11月は中学校で青少年の被害・非行防止を呼び掛ける街頭啓発運動を実施しました。青少年の健やかな成長及び生涯学習の基礎づくりを目的に、小中学生を対象とした事業を開催しました。「子ども自然探検隊」は、隊員35名、委員15名、サポーター8名で年間5回活動しました。「親子ふれあい料理教室」は年6回開催したほか、工場見学の研修を実施しました。「なんでも体験隊」、「合唱団つばさ」、「こども生け花教室」、「英語検定応援講座」は、継続事業として定期的に開催しました。また、「こども映画会」では、親子95名があつりホールで鑑賞しました。日本古来からの伝統行事の継承を目指した事業として、しめ縄作り教室、書道教室、書初展を継続して実施しています。令和5年度より開催のエコールみよたマルシェは、地域コミュニティを深める機会を提供し、地域交流の活性化を目的として年4回開催し、定着を図っています。11～20店舗の出店がありました。                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事業費 1,094千円      | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ B 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                       |                                                                                                                                                                                              |           |        |        |                    |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|--------|--------|--------------------|
| 4 各種講座・イベント<br>情報発信事業 | 生涯学習及び公民館活動について、参加者や分館長の声とともに情報発信することで、その必要性や楽しさをアピールするとともに、関連施設の利用及びイベントの参加促進などにもつながるよう取り組んでいます。                                                                                            |           |        |        |                    |
|                       | 広報「やまゆり」やエコール事務所入り口に、各種教室案内や活動報告を載せ、事業の魅力を伝える活動に取り組んでいます。                                                                                                                                    |           |        |        |                    |
|                       | 公民館報発行回数：年2回（10月・4月）、発行部数：5,500部（広報やまゆりに掲載）                                                                                                                                                  |           |        |        |                    |
|                       | コンサート事業では、広報紙に合わせてチラシを回覧し、事業の周知を図りました。また、令和元年度から開始したSNSについては、引き続き講座募集や、活動状況等の紹介に活用し、公民館事業のPRにつなげています。コンサート事業の申込みは、整理券の配付のほか、LINEからの申込みも併用しています。二十歳を祝う会でもLINEの事前登録や当日受付により、参加しやすいように取り組んでいます。 |           |        |        |                    |
| 事業費                   | 145千円                                                                                                                                                                                        | （事業の自己評価） | 必要性＝ A | 妥当性＝ A | 成果＝ B 効率性＝ B 方針＝ B |

### 3. 事業評価の凡例

|        |          |            |              |           |           |
|--------|----------|------------|--------------|-----------|-----------|
| 事業の必要性 | A:増加している | B:横ばい      | C:減少している     |           |           |
| 事業の妥当性 | A:妥当である  | B:ほぼ妥当である  | C:あまり妥当ではない  | D:妥当ではない  |           |
| 事業の成果  | A:上がっている | B:やや上がっている | C:あまり上がっていない | D:上がっていない |           |
| 事業の効率性 | A:高い     | B:やや高い     | C:やや低い       | D:低い      |           |
| 事業の方針  | A:拡大     | B:現状のまま継続  | C:改善後継続      | D:統廃合     | E:休止 F:廃止 |

### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目開催のセイジ・オザワ松本フェスティバルスクリーンコンサートでは、昨年以上の方に来場していただきました。要望により、8年度も計画しています。事業後に実施するアンケートを通して、町民ニーズの把握、事業の改善に努め、子どもから大人まで生涯学習活動の推進となるよう取り組んでいます。</li> <li>・きなんしまつりの芸能発表会では、新規団体の参加や中学生の演劇部の出演がありました。総合文化展も含め、より多くの方に来場してもらえるよう、今後も検討していく必要があります。令和8年度は、芸能発表会翌日に県民コンサートを計画しています。</li> <li>・人材バンク事業では、新規人材の発掘や人材登録者を様々な場面で活用できるように取り組んでいます。今後も人材バンクの充実と活用により、生涯学習機会の推進や魅力ある講座づくりに取り組んでいく必要があります。</li> <li>・キックベース大会に代わる事業として開催の「こども映画会」は2年目の実施となりました。幼児から気軽に楽しんでもらえるよう短編作品をあつもりホールで上映しました。多くの方に来場してもらえるよう、今後も作品選びの工夫等に取り組めます。</li> <li>・各種講座・イベントの情報発信については、普段、公民館を利用されていない方にも来てもらえるよう、引き続き周知に取り組んでいく必要があります。</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 5. 識者からの意見

|                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業数が多いため、ボランティア等、業種ごと集って町民全体を巻き込んだ方が良い。</li> <li>・小中学校の吹奏楽について、発表の場が少なく感じるので、もう少し発表の場を増やしてほしい。</li> <li>・こども自然探検隊について、子どもたちには人気で参加者が多い一方で、委員の高齢化が目立つ。委員確保を考えていかないといけない。</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                                                                            |

## 教育委員会 事業評価表

### 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります  |
| 基本方針 | いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進 |
| 主要施策 | 生涯を通じた学びの推進(貸館事業)           |

### 2. 施策に該当する事業

| 事業名            | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                               |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 複合文化施設維持管理事業 | 複合文化施設の維持管理により環境整備を行い、施設を学習の機会や活動の場として提供し、生涯学習活動等の充実を図っています。                     |
|                | 複合文化施設開館日数は317日、利用件数3,424件、利用者数47,852人、1日あたり平均利用者数151人で、前年度に比べ利用者数は1,235人減少しました。 |
|                | 大会議室・中会議室は、土日祝日に一般利用がない場合に自習室として開放し、年間延べ利用者数は55名でした。                             |
|                | 施設維持管理は、貸館業務、清掃業務、設備の保守管理業務など19業務を民間委託しています。                                     |
|                | 【委託料・通信運搬費】                                                                      |
|                | ○公共施設予約システム委託料[770千円]、クラウドサービス利用料26ヵ月[1,001千円]                                   |
|                | エコールみよたの施設予約をスマートフォンやパソコンからオンラインで出来る公共施設予約システムを令和8年2月に開始し、窓口や電話予約と併用しています。       |
|                | 【施設修繕・工事】                                                                        |
|                | ○空調設備修繕工事[17,710千円]                                                              |
|                | 博物館系統空調設備(事務室・作業室・工作室・体験工房・工作室前等トイレ)のヒートポンプ付きファンコイルユニット9台の更新工事を行いました(設置から21年経過)。 |
|                | ○エコールみよた駐車場区画線・パーキングブロック修繕[1,067千円]                                              |
|                | 駐車区画、横断歩道、障がい者・車いすマーク、軽マークの引き直し、劣化したパーキングブロック37本の入れ替えを行いました。                     |
|                | 【備品購入】                                                                           |
|                | ○授乳室購入[3,245千円]                                                                  |
|                | 安心・安全に施設利用ができるよう、授乳やおむつ替えができる授乳室を設置しました。                                         |
|                | ○会議室用長机購入[509千円]                                                                 |
|                | 会議室長机10台を入れ替えしました。状態の悪いものから入れ替え、次年度で完了します。                                       |
| 事業費 65,031千円   | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= B                                       |

### 3. 事業評価の凡例

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 事業の必要性 | A:増加している B:横ばい C:減少している                    |
| 事業の妥当性 | A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない     |
| 事業の成果  | A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない |
| 事業の効率性 | A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い                    |
| 事業の方針  | A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止     |

### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・年間利用者数は47,852人で、前年度に比べ、利用者は1,235人(前年比97.5%)減少しましたが、利用件数は3,424件(前年比+104.9%)で159件増加しました。特にあつもりホールは445件で(前年比+116.4%)で56件増加しました。件数は増えた1回の利用者数が多いあつもりホールでのイベント等が昨年度に減ったことが、利用者数減少の要因となりました。</p> <p>・令和8年2月に、施設予約の空き状況確認や予約ができるよう公共施設予約システムを整備し、利用者の利便性向上や利用者増に取り組んでいます。利用者アンケートでは、総合的な満足度で64%が「大変満足」「やや満足」、28%が「ふつう」と回答されています。「やや不満」(8%)に対しては、引き続き使用方法の説明やシステムの改善を行っていきます。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・空調機器の入れ替えを計画的に実施し、令和7年度は博物館系統の空調機器の入れ替えを行いました。施設の熱中症対策も含め、今後も適切な維持管理と突発的な修繕にも対応をしていく必要があります。 |
| ・令和2年度に策定した公共施設等総合管理計画による個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)に基づいて計画的に修繕や工事を行うことで、施設を適切に維持管理していく必要があります。     |

#### 5. 識者からの意見

|                          |
|--------------------------|
| ・いつ行っても学習ができる空間(場所)がほしい。 |
|                          |
|                          |
|                          |
|                          |

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育む文化のかおるまちをつくります  |
| 基本方針 | いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進 |
| 主要施策 | 図書館の充実                      |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名       | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 図書館運営事業 | <p>蔵書数 112,648冊      利用者数 24,481人      貸出数 99,750冊</p> <p>令和7年度における図書館の来館者数は44,189人となり、前年度とほぼ横ばいで推移したものの、年間の貸出冊数は前年比2.9%増の99,750冊となりました。全国の多くの図書館で貸出冊数が減少傾向にある中、当町において増加に転じたことは、これまでの積極的な読書推進施策の成果であると考えています。具体的な要因としては、第一に幼少期からの利用定着に向けた、幅広い場での活動が挙げられます。館内での読み聞かせに加え、児童館や保育園への出張読み聞かせを実施したことで、子どもたちに図書館に親しむきっかけを提供できました。第二に、利用者のニーズに合った計画的な選書と迅速な提供です。地域性を考慮し、幅広い分野の資料を網羅できるよう「御代田町選書基準」に基づき司書が厳選し、スムーズな購入・配架に努めました。今回の貸出冊数の増加は、明確な目的を持って来館するリピーターの定着や、調べものや学習を目的に利用される方の増加によるものと分析しています。</p> <p>長野県内では3つの市町村しか取り組んでいない「図書館を使った調べる学習コンクール」は、今年度で5回目を迎えました。今回は小中学校から430作品もの応募があり、さらに、その内の34作品が入選しました。応募作品は「50ページまで」というルールとなっていますが、自ら多くのことを熱心に調べ、このページ数ぎりぎりのボリュームで応募する子どもたちが年々増えています。これに伴い、図書館としても学校での授業のサポートに積極的に携わってまいりました。子どもたちが「調べることの楽しさ」を知り、主体的に学ぶきっかけとなるよう、今後も学校と密に連携しながら、取り組みを継続してまいります。</p> <p>現在の蔵書数は112,648冊です。館内の限られたスペースを有効に活用するため、団体への貸出を行ったり、他の市町村と本を貸し借りしたりすることで、本を循環させる工夫をしました。その他にも、毎月テーマを変えた展示を行い、利用者の方々がたくさんの本に出合っただけできるよう取り組んでいます。また町の特徴として、多くの寄贈本をいただけることが挙げられます。令和7年度は3,083冊の寄贈がありました。一冊ずつ確認して仕分ける作業には多くの手間がかかりますが、その中には地域の歴史を伝える貴重な郷土資料も含まれており、これらをしっかり残していくことは図書館としての大切な役目であると考えています。寄贈いただいた本の一部は、リサイクル本(Re本)として有効に活用しています。3年前から役場、駅、図書館の3箇所を設置している「Re本コーナー」は、本を補充するとすぐになくなってしまふほど町民の皆様に定着しており、身近な場所で本に親しむ機会となっています。</p> <p>その他にも、図書館は生涯学習を支える場であることから、多岐にわたるテーマの講座を開催しました。全7回で、野菜作り、クマについての知識、絵本作家の方を招いてのお話など幅広い世代に楽しんでいただける内容になりました。</p> <p>また、館内での活動にとどまらず、高齢で来館できない方には宅配サービスを行っており、現在3名の方にご利用いただいています。</p> |
| 事業費       | <p>30,089千円 (事業の自己評価)      必要性=A      妥当性=A      成果=A      効率性=A      方針=A</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|          |                                                                                    |           |       |       |                 |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|-------|-----------------|
| 2 読書推進事業 | 乳幼児から生涯にわたり本に親しんでもらえるよう、ボランティアの方々と協力しながら、以下の通り読書推進事業を展開しました。                       |           |       |       |                 |
|          | 1. ボランティアの方との協力事業(延べ参加人数)                                                          |           |       |       |                 |
|          | ちいさいおともだちのおはなし会(乳幼児対象) 250名                                                        |           |       |       |                 |
|          | おはなし会(幼児～低学年対象) 108名                                                               |           |       |       |                 |
|          | 英語で読み聞かせ 16名                                                                       |           |       |       |                 |
|          | 昔がたり 17名                                                                           |           |       |       |                 |
|          | お父さんの読み聞かせ 11名                                                                     |           |       |       |                 |
|          | 小さな朗読会 94名                                                                         |           |       |       |                 |
|          | 児玉区朗読会 129名                                                                        |           |       |       |                 |
|          | 社協睦会 21名                                                                           |           |       |       |                 |
|          | 2. 職員による実施事業・学校連携                                                                  |           |       |       |                 |
|          | 令和7年度は、児童館での乳幼児向けの「ひだまりっこ」と小学校一年生の「読み聞かせ」の他に、保育園での「読み聞かせ」や保育園から来館しての「読み聞かせ」を行いました。 |           |       |       |                 |
|          | ○児童館での活動                                                                           |           |       |       |                 |
|          | ・ひだまりっこ(乳幼児対象) 188名                                                                |           |       |       |                 |
|          | ・読み聞かせ(小学1年生) 736名                                                                 |           |       |       |                 |
|          | ○保育園との連携                                                                           |           |       |       |                 |
|          | ・来館 13回                                                                            |           |       |       |                 |
|          | ・訪問 3回                                                                             |           |       |       |                 |
|          | ○世代に応じた読書支援事業                                                                      |           |       |       |                 |
|          | ・ブックスタート事業                                                                         |           |       |       |                 |
|          | 10か月児を対象に実施し、75名に「お気に入りの一冊」を贈呈。                                                    |           |       |       |                 |
|          | ・セカンドブック事業                                                                         |           |       |       |                 |
|          | 小学1年生の5クラスを対象に、学級文庫として各35冊(計175冊)を贈呈。                                              |           |       |       |                 |
|          | 3. 利用促進イベント・体験学習                                                                   |           |       |       |                 |
|          | 利用者の関心を高め、来館を促進するために様々なイベントや体験の場を提供しました。                                           |           |       |       |                 |
|          | ○全利用者・希望者向け企画                                                                      |           |       |       |                 |
|          | ・読書週間・クリスマス企画                                                                      |           |       |       |                 |
|          | 手作りのしおりのプレゼントや、普段は見られない「閉架書庫」を案内するツアーを開催しました。                                      |           |       |       |                 |
|          | ○子ども向け企画                                                                           |           |       |       |                 |
|          | ・季節のしおり作り                                                                          |           |       |       |                 |
|          | 日常的な取り組みとして、カウンターで季節に合わせたしおりの提供(作成キット等)を始め、多くの利用者に喜ばれています。                         |           |       |       |                 |
|          | ・本のガチャガチャ                                                                          |           |       |       |                 |
|          | 読書週間等に、本をもう一冊多く借りられる工夫として実施しました。                                                   |           |       |       |                 |
|          | ・体験学習の受け入れ                                                                         |           |       |       |                 |
|          | 毎年恒例となっている小学生の「司書体験」や中学生の「職業体験」を受け入れました。                                           |           |       |       |                 |
|          | 日頃は見られない裏側の仕事に驚きつつも、楽しみながら学ぶ機会となりました。                                              |           |       |       |                 |
| 事業費      | 247千円                                                                              | (事業の自己評価) | 必要性=A | 妥当性=A | 成果=A 効率性=A 方針=A |

### 3. 事業評価の凡例

|        |          |            |              |                       |
|--------|----------|------------|--------------|-----------------------|
| 事業の必要性 | A:増加している | B:横ばい      | C:減少している     |                       |
| 事業の妥当性 | A:妥当である  | B:ほぼ妥当である  | C:あまり妥当ではない  | D:妥当ではない              |
| 事業の成果  | A:上がっている | B:やや上がっている | C:あまり上がっていない | D:上がっていない             |
| 事業の効率性 | A:高い     | B:やや高い     | C:やや低い       | D:低い                  |
| 事業の方針  | A:拡大     | B:現状のまま継続  | C:改善後継続      | D:統廃合<br>E:休止<br>F:廃止 |

### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

- ・地域性を踏まえたニーズに沿う選書を行い、バランスの取れた蔵書構成を目指します。また、縄文や浅間山に関する貴重な郷土資料の収集・保存に努めます。
- ・子どもから大人まで切れ目のない利用を促すため、YA(ヤングアダルト)本の充実を図るとともに、幅広い世代が学べるイベントを開催します。
- ・学校図書館との連携を深め、「図書館を使った調べる学習」を通じて子どもの主体的な学びを支えます。これに伴い、資料の充実と職員の資質向上を推進します。
- ・高齢化による来館困難者の増加に対応するため、宅配サービスの利便性向上と周知に努め、事業の充実を図ります。

### 5. 識者からの意見

- ・今後も学校の図書館と連携を図ってほしい。
- ・図書に興味を持っている子どもたちも多いため、読書の推進を行ってほしい。

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります |
| 基本方針 | スポーツへの主体的な取り組みの推進          |
| 主要施策 | 生涯スポーツの振興                  |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名                          | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 生涯スポーツ普及・振興事業              | <p>スポーツ推進委員の協力を得て、次のイベントを社会体育事業として開催しました。</p> <p>この他には、補助金交付団体であるスポーツ協会でも大会や教室を開催しています。</p> <p>・7月19日:ちびっこ裸足で運動会・8月3日:みんな裸足で運動会</p> <p>・9月21日:小学生スポーツ交流会(ランニング教室)・10月5日:御代田町スポーツフェスティバル</p> <p>・11月2日:町民マラソン大会・12月7日:小学生スポーツ交流会</p> |
| 事業費 740千円                    | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= B 方針= B                                                                                                                                                                                          |
| 2 運動が習慣化されていない住民を対象とした取組推進事業 | <p>学校や保育園の依頼によりスポーツ推進委員を派遣し運動の指導を実施しています。</p> <p>また、6月29日、8月28日にスポーツ推進委員による「ニュースポーツ体験会」を開催したほか、新規事業として、障がい者とのスポーツによる交流を図る「御代田スポーツクラブ」開始しました。</p> <p>偶数月の原則第3日曜日を開催日とし、計6回実施しました。</p>                                                |
| 事業費 524千円                    | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= C 方針= B                                                                                                                                                                                          |
| 3 スポーツ指導者等の育成・研修支援事業         | <p>スポーツ推進委員が以下の会議等に参加しました。</p> <p>・佐久地区スポーツ推進委員研究協議会総会(4/12):3名</p> <p>・佐久地区推進委員代議員会(4/8:1名, 2/13:1名)</p> <p>・佐久地区女性委員会・講習会(4/12:3名、2/7:1名)</p>                                                                                     |
| 事業費 36千円                     | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= C 方針= B                                                                                                                                                                                          |
| 4 関係各課と連携した生涯スポーツ事業          | <p>中学校の部活動地域展開を見据えて運動部の外部指導者等12名を任命しています。</p>                                                                                                                                                                                       |
| 事業費 1,245千円                  | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= B 方針= C                                                                                                                                                                                          |

## 3. 事業評価の凡例

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 事業の必要性 | A:増加している B:横ばい C:減少している                    |
| 事業の妥当性 | A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない     |
| 事業の成果  | A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない |
| 事業の効率性 | A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い                    |
| 事業の方針  | A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止     |

## 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・町民大運動会について、各区からの様々な意見を踏まえ代替イベントとして御代田スポーツフェスティバルを開始しました。ボッチャ大会、モルック大会に加え、ミニ運動会を実施し約300名の参加がありました。 |
| ・関係団体等と積極的な連携・協力体制を強化し、部活動の地域展開が段階的に進むよう努めます。令和8年度よりスポーツ少年団の野球チームが中学生の野球を指導していくこととなりました。           |

## 5. 識者からの意見

|                                          |
|------------------------------------------|
| ・スポーツ推進委員が、どのような取り組みを行っているかなど、周知が必要と感じる。 |
| ・猛暑の影響等のため、スポーツイベントの実施時期の見直しをした方が良い。     |

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります |
| 基本方針 | スポーツへの主体的な取り組みの推進          |
| 主要施策 | 生涯スポーツの振興(スポーツ団体育成・支援)     |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名                   | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 団体の育成・支援事業          | <p>主な事業内容として、スポーツ協会への補助金の交付と事務局支援のほか、スポーツ協会が主催する大会やスポーツ少年団の定期練習等に係る施設使用料を減免し支援しています。</p> <p>4月に開催される市町村対抗駅伝、市町村対抗小学生駅伝に出場するため選手を集い、4カ月間の合同練習を行いました。小学生チームは総合8位、町の部2位でした。</p>                                                                                  |
| 事業費 2,700千円           | (事業の自己評価) 必要性＝ B 妥当性＝ B 成果＝ B 効率性＝ B 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                    |
| 2 会場借上事業              | <p>スポーツ少年団(カーリング)が使用するカーリングホールの会場借上料を、上限額を年間220万円として支出しています。</p>                                                                                                                                                                                              |
| 事業費 2,200千円           | (事業の自己評価) 必要性＝ B 妥当性＝ B 成果＝ B 効率性＝ B 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                    |
| 3 全国大会等参加者<br>激励金支給事業 | <p>現段階での支給基準では、北信越大会以上の出場権利を得た選手が申請された場合に支給しています。令和7年度は当初予算で500千円計上していましたが不足が生じたため、50万円を増額補正して対応しました。団体種目の場合は一人1万円(世界大会は3万円)で上限10万円、個人の場合は北信越大会1万円、全国大会2万円、世界大会3万円となっています。</p> <p>・北信越大会等：16件 480,000円</p> <p>・全国大会：21件 390,000円</p> <p>・世界大会：2件 120,000円</p> |
| 事業費 990千円             | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ B 成果＝ B 効率性＝ B 方針＝ B                                                                                                                                                                                                                    |

## 3. 事業評価の凡例

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 事業の必要性 | A:増加している B:横ばい C:減少している                    |
| 事業の妥当性 | A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない     |
| 事業の成果  | A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない |
| 事業の効率性 | A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い                    |
| 事業の方針  | A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止     |

## 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------|
| ・現在、町からスポーツ協会に2,700千円の補助金を交付し、その内スポーツ協会の傘下であるスポーツ少年団へは700千円が補助されています。 |
| ・市町村対抗小学生駅伝では令和6年度から2年連続で町の部2位となりました。                                 |

## 5. 識者からの意見

|                              |
|------------------------------|
| ・近年の物価高騰もあるため、補助金の増額をお願いしたい。 |
|                              |
|                              |
|                              |
|                              |

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります |
| 基本方針 | スポーツへの主体的な取り組みの推進          |
| 主要施策 | スポーツ施設の整備                  |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名          | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 施設の維持管理事業  | <p>施設の日常的な清掃業務等をシルバー人材センターに一部委託しています。</p> <p>日頃の施設点検はできる限り行い、利用者の安全確保や利便性を図りました。</p> <p>既存施設は築20年以上が経過しており、経年による老朽化に伴う施設修繕費が毎年増加傾向にあり、突発的な破損や損壊、機能不良などは、その都度予算化し、出来るかぎり修繕に努めました。</p> <p>・社会体育施設管理委託(委託先:シルバー人材センター):7,515千円</p> <p>・消防設備保守点検委託(委託先:長野県パトロール他):185千円</p> <p>・火災盗難集中警備委託(委託先:長野県パトロール):610千円</p> <p>・バスケットゴール点検委託料(委託先:榑中村体育):330千円</p> <p>・芝生維持管理経費 4,403千円</p> |
| 事業費 14,206千円 | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= B 方針= B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 2 施設改修計画事業   | <p>令和6年度にバスケットゴールの点検を実施したところやまゆり体育館のバスケットゴールの溶接部にひびが見つかったことから改修工事を実施しました。4,840千円</p> <p>テニスコートの一部が陥没したため、修繕工事を実施しました。8,954千円</p> <p>新社会体育施設の建設基本計画を作成する為、支援業務を委託しましたが、令和8年度に繰越しました。</p>                                                                                                                                                                                        |
| 事業費 13,794千円 | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= B 方針= A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

## 3. 事業評価の凡例

|        |                                            |
|--------|--------------------------------------------|
| 事業の必要性 | A:増加している B:横ばい C:減少している                    |
| 事業の妥当性 | A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない     |
| 事業の成果  | A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない |
| 事業の効率性 | A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い                    |
| 事業の方針  | A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止     |

## 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                    |
|----------------------------------------------------|
| ・各施設の経年による老朽化に伴う施設修繕が多発しています。                      |
| ・新社会体育施設を建設するため基本計画の作成に着手しています。                    |
| ・新社会体育施設を建設するため、既存施設の解体や改修が必要です。                   |
| ・猛暑対策のため令和7年度より、B&G海洋センター及びやまゆり体育館に移動式エアコンを導入しました。 |

## 5. 識者からの意見

|                                                              |
|--------------------------------------------------------------|
| ・新社会体育館の基本計画案すら知らない人もいるので、周知方法を検討した方が良い。                     |
| ・町営グラウンドの駐車場側と道路側の防球ネットの高さが足りていない。人身災害へ発展する恐れがあるため、対応した方が良い。 |
|                                                              |
|                                                              |

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります |
| 基本方針 | 文化・芸術の織りなす地域づくりの推進         |
| 主要施策 | 文化・芸術の振興                   |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名          | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 博物館事業      | <p>博物館事業は、常設展示・企画展示・体験学習活動の3つの柱からなっています。</p> <p>常設展示は、国重要文化財焼町土器と浅間山麓の縄文文化とともに、浅間火山がテーマです。</p> <p>企画展では「縄文土器ぐるぐる展」、「みよたを掘る!!展」、「中村和哉イラスト展」、「MIYOTA縄文マインドラ展」、「中田秀一アンドレス楽器展」と館内ミニコンサートを実施しました。</p> <p>令和7年度来館者数は25,279名で前年度入館者数24,874名から405名の増でした。</p> <p>講演会は「知っていますか郷土遺跡」、「種も実もある川原田遺跡」、「掘る!!縄文人-黒耀石採掘ものがたり」を開催しました。また、図書館との連携事業として「浅間山麓の古代人はどう生きたのか」と題して講座を開催しました。</p> <p>出前講座は佐久シニア大学、東京農業大学、御代田南小学校に講師として、岩村田小学校、御代田小学校では勾玉作りの体験講座を行いました。11月3日の文化の日には、「縄文・文化の日」として博物館無料開放、学芸員の館内説明、特別体験コーナーを行いました。</p> <p>夏休み期間中の8月2日、秋季企画展開催中の10月18日にナイトミュージアムを開催して、通常営業時間に来館が難しい方や、親子連れの来館者に学芸員の解説を聞いていただきました。</p> <p>通年事業として、学校団体や公民館活動、歴史サークルなど団体受入れも行い学芸員による解説や縄文体験を行ないました。</p> <p>4月から11月には月1回のD51-787号機公開を行いました。(12月～3月は冬季閉鎖になります。)</p> |
| 事業費 17,501千円 | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= B 効率性= B 方針= B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2 文化財保護事業    | <p>埋蔵文化財保護事業では、面替小谷ヶ沢遺跡、広畑遺跡の整理作業を実施しました。</p> <p>このほか、道路工事や携帯基地局、宅地分譲など開発に伴って破壊の懸念される町内の埋蔵文化財の立会調査24件(前年比3件増)を行いました。</p> <p>一般文化財保護では、国・県・町指定の文化財の維持管理、脆弱な縄文土器の修理、浅間山の高山蝶高山植物のパトロール、蒸気機関車D51-787号機の整備、梨沢のイチイなどの部分枯れの樹勢回復措置などの補助事業を行いました。県・町の無形文化財の「寒の水」、「小田井の道祖神祭り」にも補助事業を実施しました。</p> <p>B&amp;G 海洋センター北側にある文化財収蔵庫が竣工しました。町内各所に保管していた埋蔵文化財、民俗文化財を移動を令和7年度内に行ないました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 事業費 10,493千円 | (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

## 3. 事業評価の凡例

|        |          |            |              |                 |
|--------|----------|------------|--------------|-----------------|
| 事業の必要性 | A:増加している | B:横ばい      | C:減少している     |                 |
| 事業の妥当性 | A:妥当である  | B:ほぼ妥当である  | C:あまり妥当ではない  | D:妥当ではない        |
| 事業の成果  | A:上がっている | B:やや上がっている | C:あまり上がっていない | D:上がっていない       |
| 事業の効率性 | A:高い     | B:やや高い     | C:やや低い       | D:低い            |
| 事業の方針  | A:拡大     | B:現状のまま継続  | C:改善後継続      | D:統廃合 E:休止 F:廃止 |

#### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・浅間縄文ミュージアムは、コロナの影響が落ち着いた令和5年以降は、25,000人前後の入館者、利用者と推移しています。個人の来客やミュージアム売店コーナーの売り上げは堅調に増加していますが、学校の団体利用(雨予約含む)は、平成30年度と比較して令和7年度は約4割減となっています。少子化、林間学校の内容変化など理由はいくつかありますが、近隣の佐久、上田地域も含めて利用案内の周知に努めていきたいと思っています。 |
| ・歴史民俗文化財並びに埋蔵文化財などの文化財保護事業では、貴重な自然・文化・歴史遺産が損なわれることがないよう継続的な維持や管理に努めてたいと思います。                                                                                                                                  |
| ・埋蔵文化財、民俗文化財の移動を終えた文化財収蔵庫では、次の段階として収蔵文化財の整理、台帳作成を進めていき、それに並行して定期的な公開を行いたいと思います。                                                                                                                               |

#### 5. 識者からの意見

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

# 教育委員会 事業評価表

## 1. 施策の体系＜御代田町長期振興計画＞

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 施策の柱 | 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります     |
| 基本方針 | 次代・郷土を担う人材育成                   |
| 主要施策 | 新たな奨学金や通学補助などの学びの機会の確保・支援事業の検討 |

## 2. 施策に該当する事業

| 事業名         | 事業の内容(対象、実施状況、結果等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 奨学金貸与事業   | <p>奨学金貸与事業は、人材の育成と教育の機会均等の窓口を広げることを目的として、平成10年度から25年度までに57名の生徒・学生が奨学金を利用しました。</p> <p>制度発足から10数年経過し、国の施策や民間の教育資金、各大学の奨学金制度など、さまざまな選択肢があります。</p> <p>加えて、申請者の減少や一部の貸与者の償還金に滞納が生じてきているなどの理由により、平成26年度をもって新規の奨学金貸与事業を休止しています。</p> <p>【奨学金貸与人数】 57名（高校生：2名、短大生：2名、大学生：53名）</p> <p>【奨学金貸与総額】 89,920千円</p> <p>※令和5年度で償還は全て終了。</p>                                                           |
| 事業費 0千円     | (事業の自己評価) 必要性＝ C 妥当性＝ B 成果＝ D 効率性＝ C 方針＝ E                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 2 通学費等補助事業  | <p>御代田町には高校がなく、町外の高校に通わざるを得ない状況です。そのため、少しでも高校に通う保護者の方の経済的負担を軽減させるとともに、次代の社会を担う生徒の健全育成に資することを目的として、「高等学校等就学支援金」を支給するために必要な要綱を整備し、令和4年度より支給を開始しました。</p> <p>【対象要件】・町内に居住し、高等学校等に就学している生徒のすべての保護者<br/>・世帯全員に町税等の滞納がないこと</p> <p>【支給対象期間】在学中の3年間が上限</p> <p>【支給金額】生徒1人あたり月額1千円(年間12千円)</p> <p>《令和7年度実績》</p> <p>・支給対象者数:443名</p> <p>・申請件数:379件</p> <p>・支給件数:376件(3件は滞納があり不支給) [4,468千円]</p> |
| 事業費 4,609千円 | (事業の自己評価) 必要性＝ A 妥当性＝ A 成果＝ A 効率性＝ B 方針＝ A                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

## 3. 事業評価の凡例

|        |          |            |              |                 |
|--------|----------|------------|--------------|-----------------|
| 事業の必要性 | A:増加している | B:横ばい      | C:減少している     |                 |
| 事業の妥当性 | A:妥当である  | B:ほぼ妥当である  | C:あまり妥当ではない  | D:妥当ではない        |
| 事業の成果  | A:上がっている | B:やや上がっている | C:あまり上がっていない | D:上がっていない       |
| 事業の効率性 | A:高い     | B:やや高い     | C:やや低い       | D:低い            |
| 事業の方針  | A:拡大     | B:現状のまま継続  | C:改善後継続      | D:統廃合 E:休止 F:廃止 |

#### 4. 施策に対する現状の課題、改善策等

|                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①支援を受けた自治体に一定期間定住する、自治体内の企業へ就職する、などの条件を満たすことで、借りた奨学金の返済の全部または一部を自治体が肩代わりする、奨学金返還支援制度などもあります。今後の動向を見極めながら、関係機関と連携し調査・研究に努めていきます。 |
| ②高等学校等就学支援金については、補助額の増額を求める声はありますが、財源は全て一般財源で実施しています。次代の社会を担う生徒の健全育成に資するためにもこれから先、支援し続けることが最重要だと考えています。                         |

#### 5. 識者からの意見

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

### Ⅲ 教育委員会活動

#### 1. 組織体制（令和8年3月末時点）

教育長1名

教育委員4名（職務代理者1名・委員3名）

事務局及び教育機関等の職員

教育次長1名

係長以下正規職員17名・その他職員58名

#### 2. 委員会の活動概要

##### （1）委員会の会議

定例会（月1回、月末頃）及び臨時会を開催し、学校教育及び社会教育等について審議をしました。御代田町教育委員会傍聴人規則に基づき、会議を公開しています。

| 会議名    | 開催回数 | 議案件数 | 報告事項件数 | その他 |
|--------|------|------|--------|-----|
| 定例会    | 12回  | 19件  | 15件    | 37件 |
| 臨時会    | 1回   | 1件   | 0件     | 0件  |
| 総合教育会議 | 1回   | 2件   | 0件     | 0件  |

##### （2）視察研修等

法律の改正や国の教育改革が推進される中、教育行政への共通認識を図るとともに、教育の諸課題への解決に向けた視察研修等を例年実施しているところです。

| 視察研修等名               | 期 日      | 場 所                     |
|----------------------|----------|-------------------------|
| 佐久地区市町村教育委員会連絡協議会総会  | 4月14日    | 東信教育事務所<br>講堂           |
| 全国町村教育長会定期総会         | 5月13・14日 | 東京都中央区<br>銀座ブロッサム       |
| 関東甲信越静市町村教委連合会総会     | 5月30日    | 長野県長野市<br>ホクト文化ホール      |
| 長野県市町村教育委員会研修総会      |          |                         |
| 長野県町村教育長会研修総会        | 7月4日     | 山形村<br>山形村農業者トレーニングセンター |
| 市町村教育委員会と県教育委員会との懇談会 | 7月7日     | 東信教育事務所<br>講堂           |
| 佐久地区市町村教育委員会連絡協議会研修会 | 令和8年2月4日 | 佐久平プラザ21                |

(3) 教育委員等の学校訪問

教育委員や主幹指導主事が学校を直接訪問し、学校の現状や教職員の考え方等を把握するとともに、学校側の町教委に対する要望等を聴取し、教育行政の充実に資することを目的として実施しました。

| 訪問校   | 期 日     | 内 容            |
|-------|---------|----------------|
| 北小学校  | 5月26日 他 | 授業参観及び教職員との懇談等 |
| 南小学校  | 5月26日 他 | 授業参観及び教職員との懇談等 |
| 中 学 校 | 5月26日 他 | 授業参観及び教職員との懇談等 |

(4) 教育長・教育委員の関係行事等への出席

教育長及び教育委員が、教育委員会で実施する総会や行事等に参加することにより、事業の実態を把握し教育行政の充実に資することを目的としています。

| 期 日      | 主な行事等                  | 期 日          | 主な行事等                         |
|----------|------------------------|--------------|-------------------------------|
| 4月4日     | 小・中学校入学式               | 8月27日        | 教育委員会事務点検評価委員会                |
| 4月12日    | スポーツ少年団入団式             | 9月3日         | Chef's給食（イタリア料理）              |
| 4月18日    | 北小PTA総会                | 9月27日        | セゾ・特リ松本フェスティバル スクリーンコンサート     |
| 4月23日    | 南小PTA総会                | 10月5日        | 御代田スポーツフェスティバル                |
| 5月1日     | 中学校PTA総会               | 10月18日       | 秋のナイトミュージアム                   |
| 5月3日     | 第53回各区対抗365歳野球大会       | 10月22日       | 第2回御代田町教育支援委員会                |
| 5月13・14日 | 全国町村教育長会 第65回定期総会・研究大会 | 10月25日       | きなんしまつり芸能発表会                  |
| 5月20日    | 夢サポート塾生徒説明会            | 10月26日       | 調べる学習コンクール表彰式                 |
| 5月30日    | 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会   | 10月31日～11月2日 | きなんしまつり総合文化展                  |
| 6月5・8日   | 夢サポート塾保護者説明会           | 11月2日        | 第40回町民健康マラソン大会兼第19回町民団体マラソン大会 |
| 6月11日    | ステップアップ塾開講式            | 11月3日        | 縄文・文化の日（無料開放）                 |
| 7月4日     | 第67回長野県町村教育長会研修総会      | 11月6日        | 青少年健全育成街頭啓発運動                 |
| 7月8日     | 青少年健全育成街頭啓発運動          | 11月15日       | エコールみよたマルシェ                   |
| 7月19日    | 夢サポート塾開講式              | 11月18日       | 第3回御代田町教育支援委員会                |
| 7月19日    | ちびっこ裸足で運動会             | 1月22日        | 中学生模擬議会                       |
| 7月28日    | 3校合同研修会                | 1月31日        | 冬季講演会「掘る縄文人」                  |
| 7月31日    | 第1回御代田町教育支援委員会         | 3月1日         | ピアノリレーコンサート                   |
| 8月2日     | サマーナイトミュージアム           | 3月1日         | 町民卓球大会                        |
| 8月3日     | みんな裸足で運動会              | 3月17日        | 小学校卒業証書授与式                    |
| 8月14日    | 第47回各区対抗野球大会           | 3月18日        | 中学校卒業証書授与式                    |
| 8月15日    | 二十歳を祝う会                |              |                               |